

一般演題8-5

新築移転に伴う高気圧酸素治療業務の臨床工学技士の関わり

太田雅文¹⁾ 北山敬晃¹⁾ 林 裕一¹⁾

丹羽康江²⁾

- 1) 医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 臨床工学救急管理室 循環器・救急科
2) 医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 臨床工学救急管理室放射線治療科

【目的】

近年、病院建物の老朽化などから増築や新築移転などを行なう施設が増加している。当院も建物の耐震問題に伴い今年6月に約500m離れた新病院へ移転した。我々、臨床工学技士として新病院図面設計、医療機器移動業務、患者移送業務など様々な業務を担った。当院は2001年より第一種装置(BARAMED小池メディカル社製)を導入し空気加圧で高気圧酸素治療(以下HBO)を行ってきた。移転に合わせて新病院では新たに酸素加圧を併用できるように計画した。今回、HBO業務の新築移転時の経験をここに報告する。

【新築移転までの経過内容】

- ① 新HBO室、酸素および空気配管、電源コンセントの図面設計
- ② HBO装置移動およびHBO日程計画
- ③ 旧病院から新病院のHBO装置移動ルートの事前現場検証
- ④ 新HBO室の酸素および空気ガス配管点検
- ⑤ HBO装置移動当日業務
- ⑥ 新病院でHBO装置点検
- ⑦ 新HBO室整備とHBOスタッフおよびHBO関連部署との業務確認

【結果】

移転1日目は午前HBO2名施行、午後からHBO装置の移動と点検、2日目は新HBO室の整備やHBOスタッフの業務確認を行ない、計2日間で新病院への移行期間を終えた。その結果、HBO業務を止めずに新病院の開院初日に合わせてHBOを再開できた。

【考察】

今回、臨床工学技士が新HBO室の図面設計から携わることができ、HBO装置設置場所からガス配管や電源コンセントの位置を詳細に決めた。また病棟ベッド

やHBO装置が出し入れできるように扉幅、廊下幅を設計した。更に移転前から新病院に入り、実際のHBO装置の移動ルートである廊下、エレベーター、新HBO室の出入り口などの場所で装置を安全に移動できるかを細かく現場検証し、急なルート変更も安全に移動できた。(写真1)またHBOスタッフおよびHBO関連部署とで業務の確認を事前に何度も検討した為、特に大きな問題もなく新病院でHBO業務を再開できたと考える。

【展望】

新病院では第一装置で酸素加圧と空気加圧を切り替えて併用できるようにHBO室に酸素および空気ガス配管を設けた。(写真2)今後、新たに安全面を十分に考慮したマニュアルを作成して更にHBOを積極的にこなしていけるように努めたい。



写真1



写真2